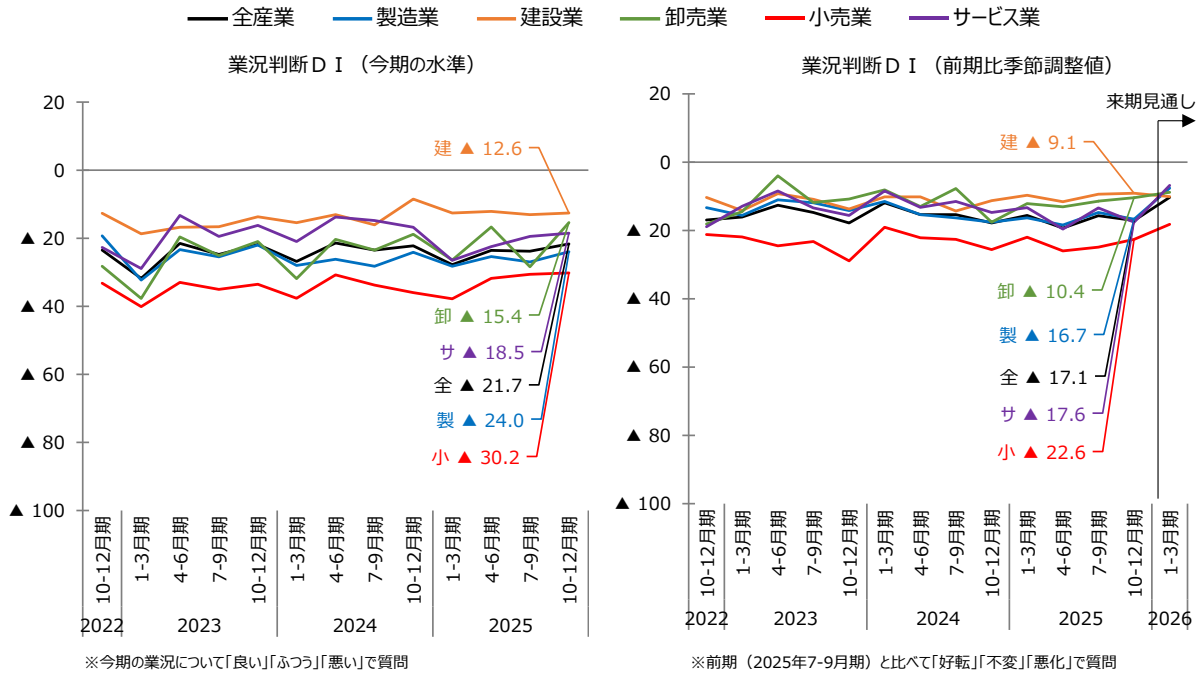


# 第182回 中小企業景況調査（2025年10-12月期） 近畿



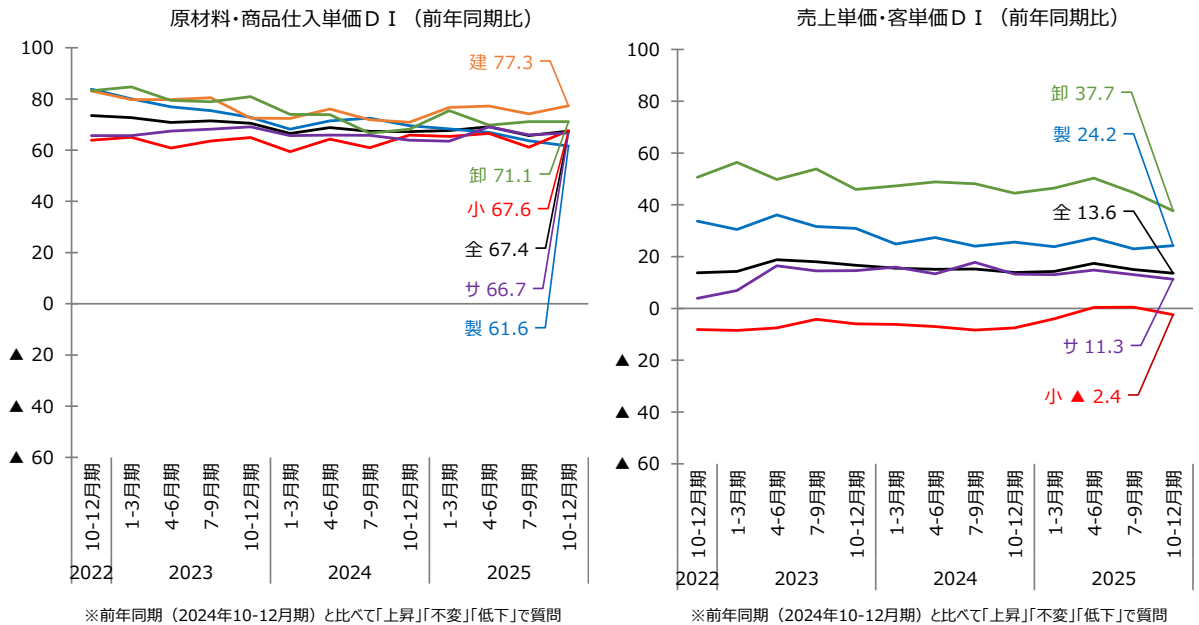
## 1. 業況感

近畿地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年7-9月期）より2.1ポイント増の▲21.7と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。



## 2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より1.7ポイント増の67.4と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、小売業、建設業、サービス業で上昇し、卸売業で横ばい、製造業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より1.4ポイント減の13.6と2期連続して低下した。産業別にみると、製造業で上昇し、卸売業、小売業、サービス業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2025年11月15日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,838 有効回答企業数：17,901 有効回答率：95.0% うち、近畿：2,537企業

※本資料の集計対象の都道府県は、福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県です。

第182回 中小企業景況調査（2025年10-12月期） 近畿

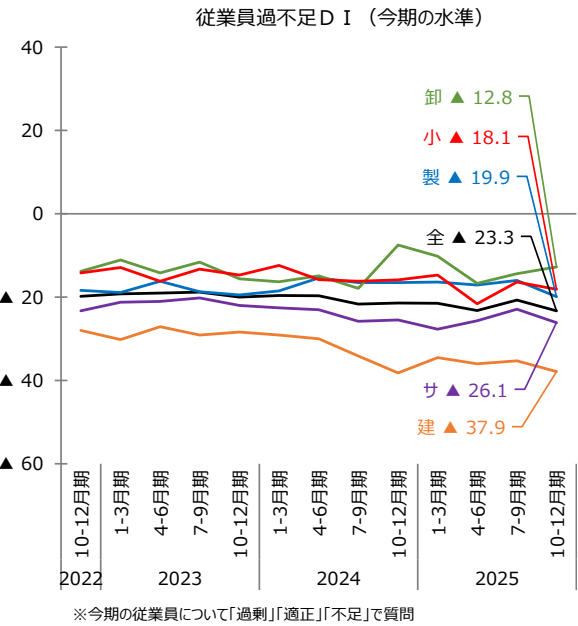
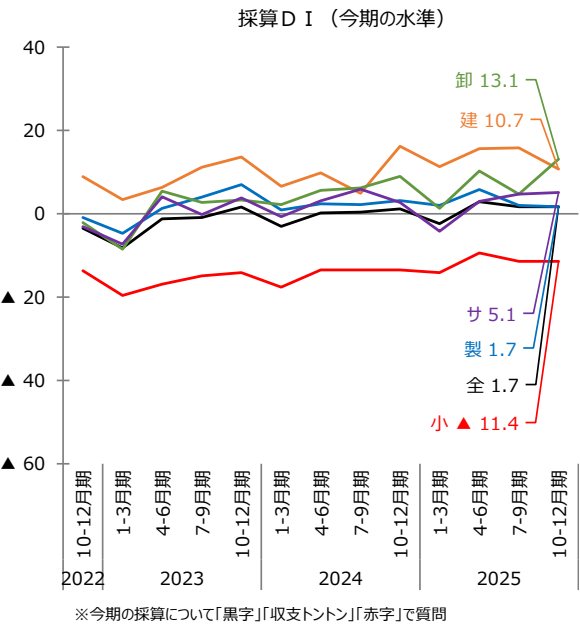


3. 採算

採算DIは、全産業で1.7と横ばいであった。産業別にみると、卸売業、サービス業で上昇し、小売業で横ばい、建設業、製造業で低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より2.6ポイント減の▲23.3と2期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、製造業、サービス業、建設業、小売業で低下した。



5. 近畿の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現状	各客先の受注計画が立てにくい。受注量の増減が大きく、短納期対応が多い。そのため生産効率が悪い。	製造業	アルミニウム・同合金プレス製品製造業
	法改正（建築基準法、アスベスト、トップランナーⅢ）により工程の長期化、複雑化が進み、人手不足に拍車がかかっている。大手の賃金上昇に小規模企業は対応しきれないため、採用にも悪影響が出ている。	建設業	一般電気工事業
	観光需要は回復傾向にあるものの、和紙業界では職人不足と生産縮小が続いており、当社でも安定供給に不安を抱えている。	卸売業	紙製品卸売業
	急激な抹茶ブームのため、生産農家が抹茶生産へ切り替え、煎茶の生産量が激減のため、日常使用のお茶の原価が昨年の3～4倍に値上がりしている。仕入すれば、価格転嫁できないため、売れ筋の商品仕入れが難しい。	小売業	茶類小売業
	A I 検索が始まるなど、技術革新がものすごいスピードで進んでいる。それに応じて新サービスをする必要がある。	サービス業	パッケージソフトウェア業
見通し	米中貿易摩擦において、レアメタル関連に不安要素が拡大。半導体や装置関連の受注に大きな影響が懸念されている。中には好調な企業（取引先）もあり、受注の取りこぼしがなく、生産体制の見直しを行っている。	製造業	工業用プラスチック製品加工業
	新規参入業者による安値受注により競争の激化が一部であり、単価下落が気になる。	建設業	タイル工事業
	業績は概ね堅調に推移しているが、為替相場の変動幅が大きく、輸入品の仕入単価への影響が大きくなっている。今後の為替相場の推移によっては、業績悪化の要因となることを懸念している。	卸売業	その他の各種商品卸売業
	夏季に比べ秋～冬は例年のごとく売上げ額は落ちているが、去年より消費マインドは若干ながら上がっている。インバウンドの増加もあり、来期は昨年を上回る予想。	小売業	食料品スーパーマーケット
	飲食物の消費税減税になれば自炊率が上がり、外食が減る。飲食店はますます不況になると思う。	サービス業	その他の専門料理店

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)